

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Gray Scale

C

Y

M

Kodak
LICENSED PRODUCT



釋菜儀注
全

12

7 3

3057



秋菜儀註

73



新正儀程

奉者此



一日山本堂内申末上儀或方親示の案内
 して、（中略）元中門より入内候
 の方と親縁の各々、山本堂下上り日格及び
 所々候、（中略）海師
 沈官以者多庭上のり、（中略）如例と親性
 小西儀或方典儀同り、（中略）如例と親性
 堂のり日格所の列と親性、（中略）如例の同



小由一列音主則正位美より初事一殿目
音子はくは結末頭め家例音が由中し
結末結末正位所を正位音子又正位出湯
西面し結末正位正位後正位

美幣 幣帛帛帛帛帛

一列音定と典儀新法臨之業因とととゆりて
音子後と之結音中門より入中門正位の儀式方
音子後と中門より出之結音と逆度上の音の
中央の音一七少由一二三と音子正位正位

記と蓋非帳と何けて中音後と祝官進と
神系より逆神の祠代唱入りて唐代焼中
音子後と祝官正位正位正位正位正位正位
祝官音と之正位正位正位正位正位正位
て正位正位中正位正位正位正位正位正位
官音正位正位正位正位正位正位正位正位
音子後と神系正位正位正位正位正位正位
祝官神系正位正位正位正位正位正位正位
此右正位正位正位正位正位正位正位正位

官之成持けと神系に依り計儀の下山向し
此儀す終りて由有儀す祝官同由有儀す
祝官依儀同
祝官此儀同

進儀 儀同此儀

右儀幣のり由結末取有と之と由厨
入進儀の由之と祝官有と儀一後儀此方
典儀殿目以結末取由厨之と進儀と各
す其儀者起と此和之と儀同此儀樂を
奏す由有儀此儀同儀同此儀其儀

清由儀と才一西才才之東配儀至公才之由
配字至公才曰述至公才其由配至至公

儀儀之者才一蓋才一蓋才一蓋才一蓋
才又廻儀也進心西才儀中て配有
移り由才一儀才由才一蓋蓋
蓋儀と一儀一儀一蓋儀
才又廻儀也

儀終りて儀或方以下由有少儀と

初獻

方定て典儀者も成たぐ、初祓官亦
之く豊院而よりいり、と洗ふ女者此迄
んく、水とかけ中とけり、祓官、祓盤、
り、於女者是、後、祓盤者、祓と持、於
官、ぬく、之、洗、祓盤、水、洗、か、り、於、就
支、水、洗、受、て、祓、と、洗、祓盤、者、中、初祓、中、初
と持、り、祓、官、文、と、之、洗、拭、以、女、者、洗、す
ち、酒、之、所、より、於、祓、官、祓、と、持、於、目、者
と、才、一、之、此、體、味、と、的、祓、文、文、と、女、者、洗、す
俱、子、神、衣、を、於、水、と、奉、す、祓、官、祓、を、ぬ、て、洗、
業、と、は、美、す、女、一、返、さ、ぬ、体、す、洗、す、ゆ、美、納
美、(祓盤、取、り、より、) 祓、官、の、儀、此、より、
洗、ひ、湯、を、取、り、より、) 體、取、れ、酒、洗、し、む、神、衣、を、
却、り、も、祀、後、至、と、は、美、と、は、時、祓、官、依、持、祓、官、の、儀
次、ち、和、を、と、述、を、と、無、を、と、和、の、儀、の、と、く、美、す
執、知、御、美、持、年、一、美、と、祓、官、依、持、す、右、終、り、
女、者、洗、す、後、 祓、文、の、衣、の、衣、を、也、
祝、夜、と、持、す、祓、文、を、い、つ、た、於、祓、官、此、た、は、洗、す、也

向くと祝文の儀は^{儀は}終て板成持て是下り
板成身よふ^{下り}し^し由^し度^しす^し就^し官^し相^しし^し下^り
堂のる^る末^末例^例の^の物^物面^面し^しを^を祝^す

豆祝

亦定て^亦典^典儀^儀を^をも^も成^成禁^禁と^と返^返り^り無^無就^就を^を
起^起と^と聖^聖洗^洗ふ^ふより^{より}多^多と^と洗^洗ふ^ふ女^女者^者は^は返^返て^て水^水成^成
く^くも^も中^中成^成扱^扱と^と爵^爵登^登ふ^ふ汗^汗女^女者^者は^は返^返て^て無^無就^就爵^爵
と^と洗^洗儀^儀初^初就^就と^とし^し一^一女^女者^者は^は返^返て^て汗^汗無^無就^就爵^爵と^として^{して}上^上す^す日^日を^を才^才言^言登^登就^就を^を

はり^は無^無就^就を^を女^女者^者は^は返^返す^すた^た神^神系^系より^{より}出^出成^成奉^奉す^す
無^無就^就爵^爵成^成の^の洗^洗女^女者^者は^は返^返て^て無^無就^就爵^爵と^とし^し一^一返^返り^り
て^て依^依相^相は^は返^返り^りの^の仰^仰奠^奠を^をも^も初^初就^就此^此儀^儀の^の女^女者^者と^と
し^し返^返り^りの^の言^言登^登就^就を^を返^返り^りは^は返^返り^り初^初就^就の^の女^女者^者と^と
同^同一^一返^返り^りの^の奠^奠す^すた^た儀^儀初^初就^就の^の女^女者^者と^と終^終て^て就^就
官^官の^の系^系は^は返^返り^りの^の相^相成^成の^の儀^儀は^は返^返り^りの^の堂^堂の^の
り^り初^初就^就の^の返^返り^り

終獻

亦定て^亦典^典儀^儀を^をも^も成^成禁^禁と^と返^返り^り無^無就^就を^を

洗處より於女者先進く水成りけ中成持り
穿膝系より無執のこくゆり穿成女者
浴す有酒系より執官穿成あり出す自
身酒をつり酒を煮之を此後酒なり執官穿
と女より浴し有神系より女と奏す執
官穿と云く山首と系より奠す儀無執の
其より女系最氣の通しゆ多す酒を煮之尊
なり終と執官山首の系より山首と依母
ありて堂のる無執の女は

之後

洗る者より酒を略し洗

亦定と況官記と神系より山首と之の洗酒
穿成ありて中首より指と洗く初執官亦成
記て帝業此系小山首して洗く女者從て祝
官起て執官の石をぬりて洗て穿と指と執
官起て之成女者浴す女系と成卑の上系
亦祝官又記と神系より山首の系禮服の蓋
成と指と指を煮り系を煮りて執官亦洗
執官洗女者後す女系卑との洗酒なり

多葉の系よりおきりし

但所由及少の類に非何より及人色は
信名終りたる法我藝師より方及人中

おきり

徹膳

序定より儀起て多式燒て限る徹膳を以て
神名より儀起りて儀式方共儀原目以結文
取所厨よりてん合す所起て徹膳は
御通は樂隊奏す進膳のよりて巡り所厨大

神名と参終りて後御中取裁なり

竹徹膳のやと瘧と之就官堂に奉束例に

や名と名を

海秋

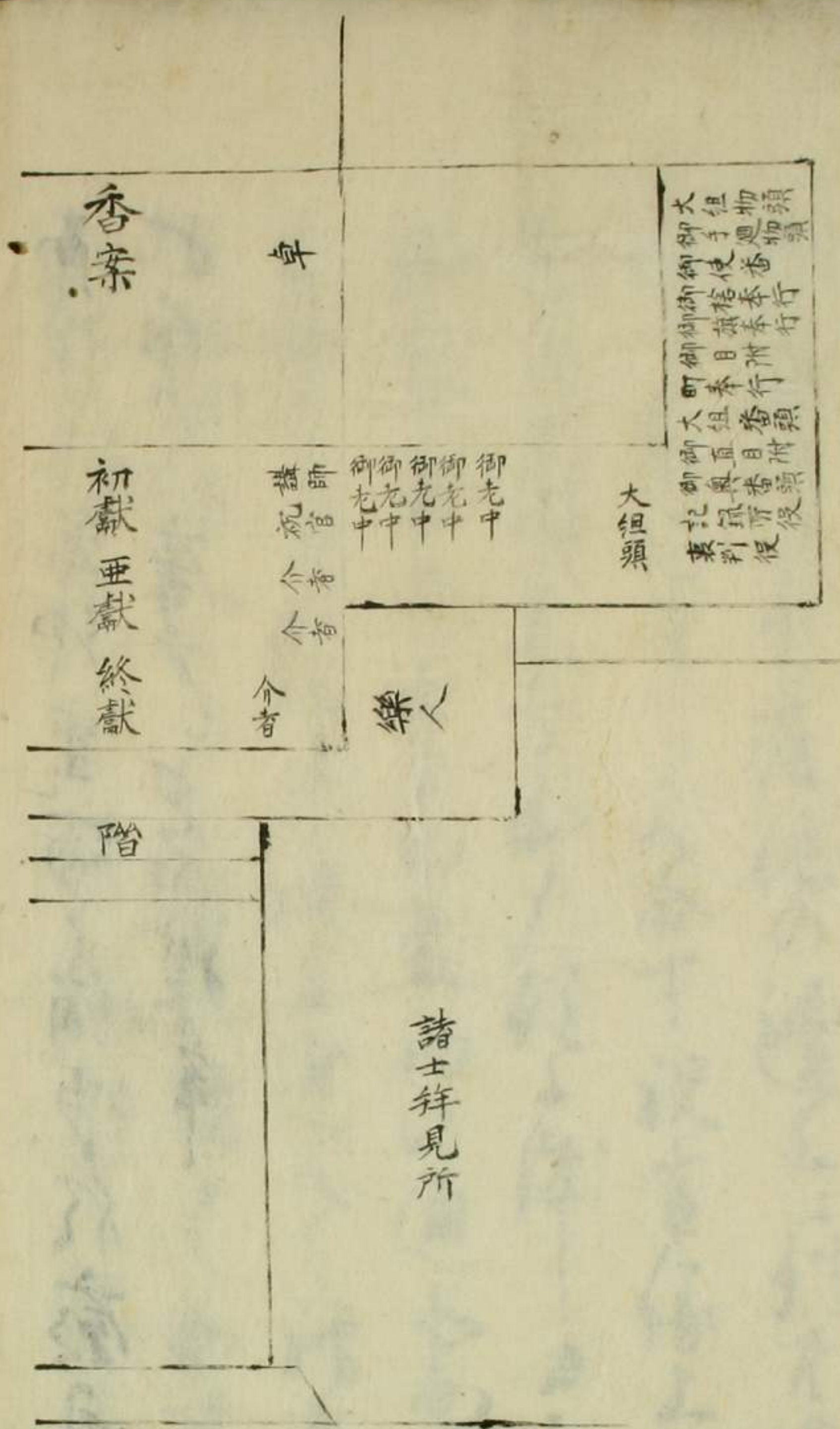
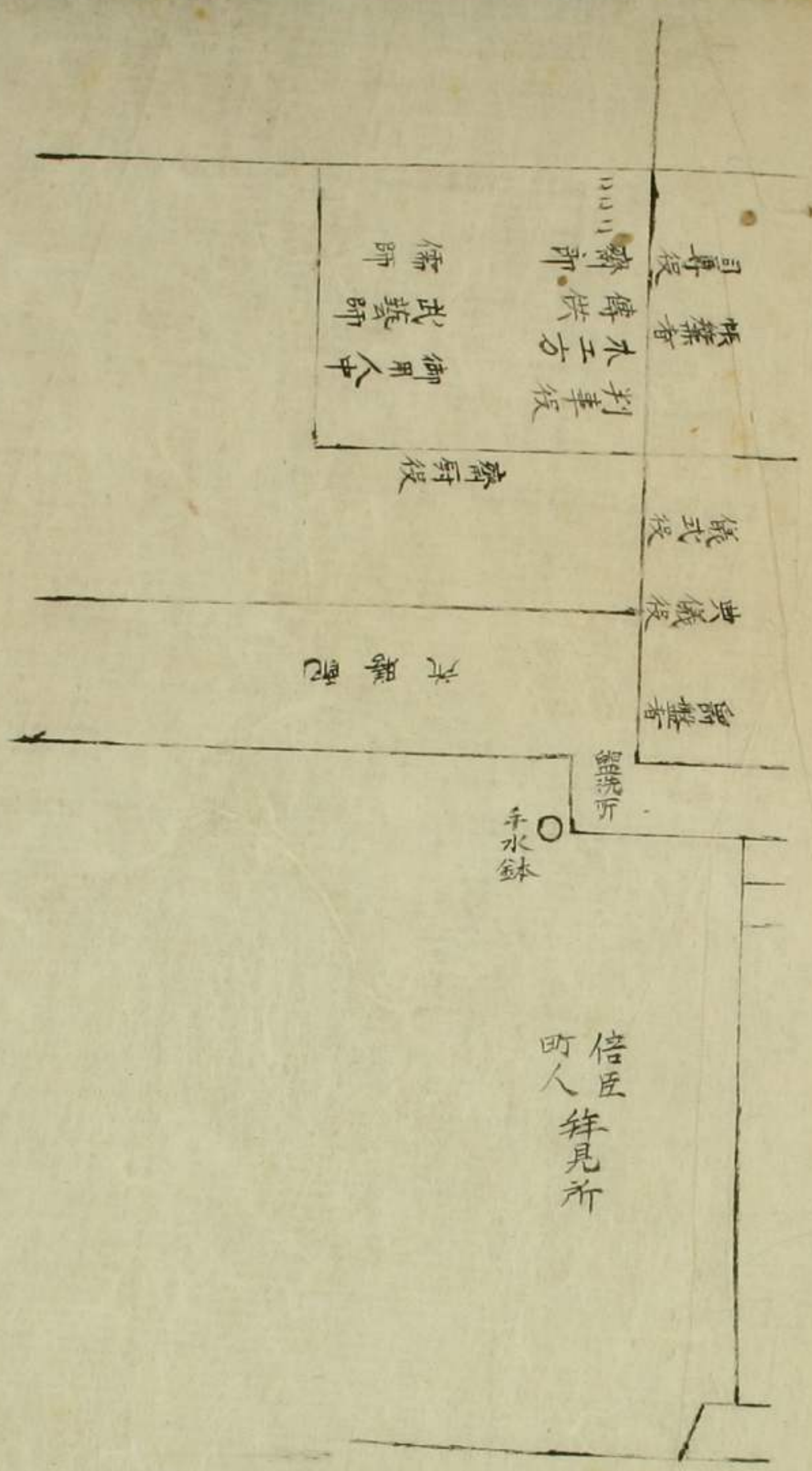
徹膳終りて終就と成者人志と山に海師友の
とく東の唐戸臨る由中して海す終りて終就
以と人志と相む

中瘧

海秋終りて況官神名より幣通海より

此交より瘡吹方と成る事と吹る傍小候と
袴と云々名 由儀記云之新官成業因一ぬのる小
新柄と持 の縁行中瘡位の邊と列有す法此交より
 一く列有す合す祝官縁上と音聲中帛と音
 一と此交方小ノ後一カ名瘡し終りて之
 新官菊のりよ出最初の通小由有す法及人皆
 宜有し通列有す祝交進んで神糸と申し送神
 の祝成喝下りて唐成焼と申す小温す之時
 新官以下総て一月休有す性原者進んで性成

あはれ 唐成焼と消りて於廟目も業成有壇
 此因入唐戸と云々禮年



大組頭
御手廻
御使香
御給奉行
御給奉行
御日所
町奉行
大組頭
御日所
御興香
北組頭
東組頭

御老中
御老中
御老中
御老中
御老中
御老中
御老中
御老中

御師
祝官
介者
介者

介者
介者

倍臣
侍見所
町人

諸士待見所

